

## 2021年5月NHK中央放送番組審議会

5月のNHK中央放送番組審議会は、17日(月)、NHK放送センター(ウェブ開催)において、17人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、経営計画における「達成状況の評価・管理」(2020年度第4四半期・1～3月)について説明があった。続いて、放送番組の種別および種別ごとの放送時間(2020年10月～2021年3月分)について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、6月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### (出席委員)

委員長 國土 典宏 (国立国際医療研究センター理事長)  
副委員長 石戸奈々子 (NPO法人CANVAS理事長)  
委員 秋田 正紀 ((株)松屋代表取締役社長執行役員)  
秋本 可愛 (株式会社Blanket代表取締役)  
石堂 真弘 (全国農業協同組合中央会常務理事)  
磯崎 功典 (キリンホールディングス(株)代表取締役社長)  
大川 順子 (日本航空(株)元副会長)  
小沢 秀行 (朝日新聞社論説副主幹)  
尾上 紫 (日本舞踊家、女優)  
木村たま代 (主婦連合会事務局長)  
佐倉 統 (東京大学大学院情報学環教授/理化学研究所革新知能統合研究センターチームリーダー)  
椎木 里佳 (株式会社AMF代表取締役社長)  
柴田 岳 (読売新聞大阪本社代表取締役社長)  
仲條 亮子 (グーグル合同会社執行役員/YouTube日本代表)  
花岡 伸和 (一般社団法人日本パラ陸上競技連盟副理事長)  
福井 烈 (公益財団法人日本テニス協会専務理事)  
安河内賢弘 (JAM会長)

### (主な発言)

<経営計画における「達成状況の評価・管理」

(2020年度第4四半期・1～3月)について>

- 全体的に例年並みかそれ以上のよい結果だと思う。NHKプラスの登録者数の推移についてはどのように分析しているのか。

(NHK側)

NHKプラスについて、2020年度は東京オリンピック・パラリンピックが開催される予定だったこともあり、およそ350万人が登録できるような準備をした。現在の登録者数はまだ100万人台であり、十分に浸透しているとは考えていない。不正を防ぐために登録の手続きがやや複雑になっていることも課題の1つで、現在改善に向けて取り組んでいる。NHKプラスの認知度を高められるよう引き続き努力したい。

- 前年と比較されているが、コロナ禍におけるデータは平時と異なるため異常値とも言えるだろう。今後も経年で比較するにあたり、コロナ禍の状況をどのように位置づけるのか知りたい。コロナ禍による影響については一時的な影響だけではなく、ライフスタイルの変化などで人々の視聴習慣が変わり、コロナ禍が終息しても継続する影響があると思われる。新型コロナウイルスの感染拡大が人々に与えた影響については、より詳しく分析してほしい。

(NHK側)

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けており、前年度のデータと単純に比較しても本質は見えてこないと考えている。一方で、新型コロナウイルス感染拡大以前のデータと比較することが重要になるケースもある。新型コロナウイルス感染拡大の影響でリモートワークが進み、テレビの視聴時間帯にも影響が出ている。テレビ視聴は生活時間帯の変化に大きく影響されるので、視聴者の生活習慣に合わせた番組編成を考えていく必要がある。また、番組をリアルタイムで視聴することが難しい人も多いので、NHKプラスを中心にデジタル展開を進めるなど、さまざまな形で視聴者にコンテンツを届けることが重要だ。今後もデータをしっかりと分析し、よりよいサービスにつなげていきたい。

<放送番組一般について>

- 5月16日(日)のNHKスペシャル「ビジョンハッカー～世界をアップデートする若者たち～」を見た。世界の貧困を解消させるため、これまでにないやり方で取り組む若者たちが紹介されていた。とても興味深い内容だったが、ビル・ゲイツさんが登場したシーンにはやや唐突感があった。SNSには大きな影響力があることがよく分ると同時に、ひとつ間違えると大きなリスクになることを改めて実感した。若い人たちの考え方や行動をしっかりと理解することの重要性を感じる番組だった。
- 5月16日(日)のNHKスペシャル「ビジョンハッカー～世界をアップデートする若者たち～」を見た。社会問題に取り組む若者たちの斬新な考え方に感心した。コロナ禍で世の中が急速に変化していることもあり、若者たちの力を生かすことがより重要になっている。若者の取り組みに焦点を当てた番組を今後も期待している。

(NHK側)

社会問題を根本から解決しようと取り組む若い世代の中から、世界で活躍する代表的な人たちを取り上げた。従来の「NHKスペシャル」とはやや異なる演出を取り入れたが、一定の評価を頂けてうれしく思う。今後も若い世代にしっかりと訴求する番組を制作していきたい。

- 4月23日(金)のドキュメント72時間「ユニフォーム店 真新しい白衣で」を見た。ユニフォーム店を訪れる人たちを3日間にわたって見つめる内容だった。研修医として仕事を始める人や、コロナ禍で経営に苦労している飲食店の店主など、さまざまな思いを持った人がユニフォームを買っていた。「ドキュメント72時間」は多様な人たちの話を聞くことができるとてもよい番組だと感じている。それぞれの思いがしっかりと伝わってくるのですばらしい。ユニフォーム店を訪れる人たちはこの店や店員をととても信頼していると感じた。この店を訪れることで心が安らいでいる人も多いのではないか。一方で、店員へのインタビューがあるとなおよかったと思う。また、取材をする中で制作者が気付いたことなどをもう少し盛り込むと、より深みのある番組になると思う。

(NHK側)

「ドキュメント72時間」は世の中をありのままに伝えることを意識した番組であり、あえてインタビューや制作者の意図が入らないよう配慮するケースもある。頂いた意見は現場に共有するとともに、今後の番組制作に活かしていきたい。

- 4月27日(火)のプロフェッショナル 仕事の流儀「令和のシンデレラストーリー～ユーチューバー・竹脇まりな～」を見た。番組のタイトルが秀逸だった。ユーチューバーというと派手な遊びで注目を集めるとイメージを持つ人も多いと思うが、昨今の流れは竹脇さんのように広い意味での学びのコンテンツが支持を集めており、視点がすばらしかった。一方で、視聴者が竹脇さんに魅力を感じる理由について、もう一步踏み込んで伝えてほしかった。コロナ禍によって社会に新たなニーズが数多く生まれている。リモートワークが進む中、自宅でどのようにエクササイズをすればよいのかなど、時代をしっかりと捉えてコンテンツを提供したことが竹脇さんの成功につながったのだろう。成功の背景にある戦略などを詳しく掘り下げるとなおよかったのではないか。

(NHK側)

頂いた指摘は現場に伝えるとともに、今後の番組制作に生かしていきたい。

- 5月1日(土)の【ストーリーズ】事件の涙「たどりついたバス停で～ある女性ホームレスの死～」を見た。バス停で休んでいたところを男に殴られて亡くなった女性の人生を丁寧に振り返る番組で考えさせられた。コロナ禍においては誰でもこのような状況に陥ってしまう恐れがあることを実感した。懸命に生きてきた人が命を落とす理不尽さを強く感じた。「ノーナレ」や「事件の涙」はドキュメンタリーの可能性を追求する番組だと感じている。今後もさまざまな番組に意欲的に取り組んでほしい。なお、この番組のことはホームページの「NHK取材ノート」で知った。ウェブコンテンツにも力を入れており、すばらしい取り組みだ。一般的な認知度はまだ低いですが、今後の展開に期待したい。

(NHK側)

亡くなられた女性の関係者を丹念に取材したところ、この事件の背景が見えてきた。現代社会が抱えている問題も含め、しっかりと伝えたいと考えた。「NHK取材ノート」は多くの方にご覧いただいている。事件が起こった際は、現象面だけを捉えるだけではなく、事件の背景にあるものを探り、報道することが重要だと考えている。引き続きこのような取り組みを続けていきたい。

- 5月1日(土)の【ストーリーズ】事件の涙「たどりついたバス停で～ある女性ホーム

ムレスの死～」を見た。都心のバス停でホームレスの女性が殴られて亡くなった事件の背景を丁寧に伝えていた。事件を通してさまざまな社会問題を明らかにしていた。コロナ禍で経済的に困窮している人が増えていることや、他人に対して不寛容な空気が広がっていることなど、さまざまな問題を指摘していた。生活保護などのセーフティーネットを簡単に受けることができない人々がいることについては、改めて取り上げてほしい。

- 5月3日(月)のあのとき、タクシーに乗って「2021年 春 東京」(総合 後7:30~8:00)を見た。NHKは「地球タクシー」や「ガイロク(街録)」など、街の人々に話を聞くことで世の中の雰囲気伝える番組をとて繊細に作っている。この番組もとても興味深かった。自分以外の人の生き方を知ることがますます重要な時代になっているという意味で、意義深い番組だったと思う。この番組はとても自然に作られておりすばらしかった。「ドキュメント72時間」などもうまく編集されており、自然な構成がとてもよいと感じている。NHKの強みを生かし、引き続きこのような良質な番組を放送し続けてほしい。

(NHK側)

“新しいNHKらしさ”を意識した開発番組として「ドキュメント72時間」のスタッフが制作した。自然な編集をすることは重要だと考えている。指摘を踏まえ、引き続きしっかりと取り組んでいきたい。

- 5月5日(水)のダーウィンが来た！「15周年SP その手があった！絶滅レスキュー大作戦」(総合 後7:30~8:15)を見た。絶滅危惧種に指定されている生き物の保護に関わる人たちの地道な活動に焦点を当てていたことがすばらしかった。種を守る必要性や、外来種の影響などについて国立環境研究所の五箇公一博士がしっかりと解説していたことがとてもよかった。「ダーウィンが来た！」は良質な番組なので、引き続き期待したい。
- 5月5日(水)のダーウィンが来た！ 15周年SP「その手があった！絶滅レスキュー大作戦」を見た。絶滅危惧種に指定されている生き物を守るために日本で始まった画期的な取り組みを紹介していた。過去の映像を使った総集編なのかと思っていたが、ツシマヤマネコやライチョウの保護活動について詳しく伝えておりとてもよかった。ツシマヤマネコの話では、動物園で生まれたツシマヤマネコを野生で暮らせるようにトレーニングする様子が伝えられていたが、大変な苦労があることに驚かされた。この活動を環境省の職員が自ら行っていることも初めて知った。

自然に返されたツシマヤマネコの長期にわたる観察など、地道な活動をうまく紹介していた。ライチョウの話題は、野生のライチョウのひながニホンザルに襲われるシーンで始まり、危機的な状況にあることがよく理解できた。一方で、この番組はNHKのSDGsキャンペーン「未来へ17アクション」の一環のようだが、より身近な話題を取り上げたほうが、多くの人がSDGsについて学ぶきっかけになったと思われる。

- 5月8日(土)の「みんなのうた60フェス」(総合 後7:30~8:43)を見た。それぞれの時代を代表する歌を蓄積することは重要で、貴重な文化資産だと感じた。歌と映像が一体になった番組はテレビならではの資産だと思う。「みんなのうた」が60年続いた理由の1つは、色あせない秀逸な番組タイトルだと思う。誰もが知っている歌が少なくなる中、「みんなのうた」は私たちが生きてきた時代を思い出させ、世代を結ぶ絆の役割を果たしていると思う。とてもよい番組だった。
- 「聖火リレーデイリーハイライト」を見ている。聖火リレーについては東京オリンピック・パラリンピックの開催の是非も含め、個人や自治体で考え方はさまざま。何が正解かは誰にも分からないが、番組では粛々と聖火リレーが行われている様子を伝えている。演出を加えることなく聖火ランナーの思いや聖火リレーの様子を伝えることは意義深く、公共メディアの重要な役割だと感じている。

(NHK側)

コロナ禍で想定外のことも起きているが、聖火リレーに携わっている人たちの思いをそのまま伝えることを心がけて番組を制作している。

- 5月12日(水)のクローズアップ現代+「なぜ少年は非行に走ったのか?▽変わる少年院の現場から」を見た。現在では、さまざまな理由で社会に適応しづらい少年が収容されるケースが増えており、少年院に求められる役割も変化していることがよく理解できた。少年院で一時的に保護を受けたとしても、再び社会に出た後に彼らを受け入れる人や場所がないと、再度犯罪に手を染めることになってしまう現状を伝えていた。少年院で過ごす子どもたちを通して、複雑な社会問題に目を向けさせるよい番組だった。少年院を出た後の社会的排除を防ぎ、一人一人が生きやすい環境を作ることによって再犯を防ぐことが重要であることがよく分かった。実際には犯罪行為に走ってしまう前に彼らに対する社会的排除が始まっていたわけで、適切な助けがあれば非行に走ることはない子どもたちが犯罪に手を染めてしまう実態が浮き彫りになっていた。現在、少年法を改正して厳罰化することが国会で検討され

ているが、厳罰化をするだけでは問題は解決しない。本来必要なのは事前のセーフティーネットであるということを探り出すことが重要だと考える。番組で問題提起をしたあとで、その問題の解決に向けてどのようなアクションを社会的に促すのかということまで意識した番組作りを期待したい。

- 5月14日(金)の未来スイッチ「“心の感染” 気をつけて」を見た。新型コロナウイルスに感染した人たちに対してのひぼう中傷や差別が広がっているが、コロナ禍で私たちの心がむしばまれていることを実感している。愛媛県で有志が立ち上げた、感染リスクが高い職業の人たちを支えるプロジェクトが全国に広まっていることが紹介されていた。当たり前のことではあるが、他人を思いやることが大切であることを改めて感じた。コロナ禍においては日常生活もギスギスした雰囲気になりがちだが、このような番組でしっかりとメッセージを伝えることは素晴らしい。ふと大切なことを思い出させてくれる番組で評価したい。
- 5月14日(金)に再放送された逆転人生「コロナ禍でほっこり！どん底スーパーのフルーツサンド」を見た。NHKは子ども向けの番組や年配の方が好む番組を放送しているという印象が強かったが、この番組はとても興味深く引き込まれた。時代の流れから大型スーパーに顧客を奪われた小さなスーパーが、倒産寸前の状態からこだわりのフルーツサンドで大逆転したエピソードが紹介されていた。コロナ禍で苦境に立たされている会社が数多くあるなか、人々に勇気を与える番組だったと思う。SNSでのPRが奏功したという紹介があったほか、専門家の解説も的確で多くの人の学びにつながったのではないかと感じる。リアルタイム視聴だけではなく、デジタルサービスによる番組視聴を促すような工夫をさらに進めると、より多くの視聴者に届くのではないかと感じる。NHKは民間の動画配信サイトなど、さまざまな魅力的なコンテンツと競わなければならない局面にあると思われるので、SNSの活用を進めるなど努力を続けてほしい。
- 連続テレビ小説「おちょやん」を見ていた。重い内容も多く朝の時間帯に見るのがつらいと思うこともあったが、しっかりと伏線を回収し、コロナ禍でも希望を持てる結末になっており感動した。人生はさまざまなことが起こることを誰もが納得する形で伝えており、素晴らしいドラマだった。次の連続テレビ小説「おかえりモネ」にも期待している。
- 連続テレビ小説「おちょやん」を見ていた。朝に見るドラマとしてはややつらい面もあったが、しっかりと作り込まれており感動した。視聴率がのびなかったようだが、主人公のモデルとなる人物の知名度や放送開始時期などが影響したのではな

いか。コロナ禍でありやむをえない面もあるが気になった。

- 5月17日(月)の連続テレビ小説 おかえりモネ「(1) 天気予報って未来がわかる？」を見た。これから東日本大震災の記憶がない子どもたちが増えていく。震災から10年が経過したいま、被災地に関連したドラマを制作することはすばらしいと思う。SNSでもとても話題になっている。「おちょやん」は若者に人気のSNS (Instagram) を開設していなかったが、「おかえりモネ」はすでに公式SNSが稼働しており、よい取り組みだと感じている。SNSの機能も使いこなしており、しっかりと活用できている。NHKはこのSNSを十分に活用しきれていない印象があるので、さらに取り組みを進めるとよいのではないか。このSNSはドラマやバラエティー番組と相性がよいだけではなく、海外ではニュース番組のアカウントも多くの人々に支持されている。NHKのニュースも、SNSの機能を利用して発信することで若い世代にこれまで以上に届く可能性があると思われるので、引き続き努力を続けてほしい。

(NHK側)

頂いた指摘は現場に伝えるとともに、今後のドラマ制作や番組広報に生かしていきたい。

(NHK側)

若い世代にNHKのコンテンツを届けるため、SNSを効果的に活用する必要があると考えている。NHKは多くの番組で公式のアカウントを持っているが、うまく連携が取れていない場合もある。頂いた指摘を踏まえ、SNSの活用について引き続き取り組みを進めていきたい。

- 土曜ドラマ「今ここにある危機とぼくの好感度について」を見ている。日本の大学の実態や問題点を的確に捉えており、ドラマとしても完成度が高くとてもよい。やや誇張した描き方をしているので、不満を持つ関係者もいると思うが、あくまでドラマでありむしろよい演出だと思う。大学の問題点は数多いが、現在では改善していることも多くあると思われる。大学のさまざまな動きについてはドキュメンタリーなどで多角的に取り上げてほしい。
- 土曜ドラマ「今ここにある危機とぼくの好感度について」を見ている。知り合いの大学関係者も「ドラマだが、内容がリアル」と高く評価していた。まず、タイトルが秀逸だ。「好感度」は今の時代を理解するうえで重要なキーワードの一つだろ



う。アナウンサーから大学の広報職員に転職した主人公を演じる松坂桃李さんをはじめとする配役もよい。ポストドクターの不安定な雇用形態など、今の大学が抱えるさまざまな問題がしっかりと描かれている。第3回では、記者会見の危機管理を通して、今の日本社会が抱える問題点を鋭く指摘していた。今後の展開を楽しみにしている。

- よるドラ「きれいのくに」を見ている。容姿へのコンプレックスをテーマにしたファンタジー要素の強いドラマで、世界観が斬新でとても興味深い。若い俳優たちの演技もみずみずしく、よいドラマだ。ドラマ10「半径5メートル」も見ている。私たちが日々感じている違和感や生きづらさを、女性週刊誌の若手編集者と型破りなベテラン記者がコンビになり、身近な話題から世の中を見つめるドラマだ。何ごとも多面的に捉えることが重要であることを気づかせてくれる内容ですばらしい。また、土曜ドラマ「今ここにある危機とぼくの好感度について」を見ている。記者会見のシーンで意味のあることを決して言わない主人公の心情や、そのことで追い込まれていく状況が興味深い。これら3つのドラマはそれぞれテイストが異なっているが、物事を表面だけで捉えずに自分自身でさまざまな角度から考え、本質を見抜くことが大切だという共通のテーマがあるように感じた。コロナ禍の中ですばらしいドラマを放送し続けていることを評価したい。

(NHK側)

意見を頂いた3つのドラマは、著名な脚本家によるオリジナル作品だ。それぞれの脚本家の目を通して現代を捉えたことで、指摘頂いたような共通点や時代感が出てきたのだと思う。コロナ禍においても良質なドラマを視聴者に届けることは大切だと考えており、引き続きしっかりと取り組んでいきたい。

- よるドラ「きれいのくに」を見ている。斬新な設定のドラマで、とても興味深い。NHKのドラマにはいつも驚かされており、楽しみにしている。
- 5月3日(月)から6日(木)にかけて再放送された「透明なゆりかご」を見た。命の大切さなどさまざまなことを考えさせられる良質なドラマだった。ジェンダーの問題など、今後も時代を捉えたNHKならではの素晴らしいドラマを作り続けてほしい。

(NHK側)

多くのドラマに高い評価を頂きありがたく思う。頂いた意見は現場に伝えるとともに、今後の番組制作に生かしていきたい。

- 4月19日(月)の100分de名著「渋沢栄一“論語と算盤”(3)合本主義というヴィジョン」と4月26日(月)の「渋沢栄一“論語と算盤”(4)対極にあるものを両立させる」を見た。中国古典研究の第一人者である守屋淳さんが、渋沢栄一の理念や生きざまなど人物像に迫る解説をしておりとても勉強になる。孔子のことばを引用した守屋さんの解説を通して、渋沢が「論語」から何を学んだかということがよく分かった。渋沢の志の高さが伝わってくる番組で、それぞれの放送回につながりが感じられるところもよい。公益と経済を両立させる渋沢の考え方は現代においてとても重要であり、考えさせられた。
- 5月11日(火)の浮世絵EDO-LIFE「落書き?名作?衝撃の一枚!国芳“荷宝蔵壁のむだ書き”」を見た。浮世絵師の歌川国芳が歌舞伎役者の落書きを荷宝蔵壁というペンネームで描いていたという内容で、とても興味深かった。昔の浮世絵師はみな真面目だったという印象を持っていたが、浮世絵を規制する天保の改革に反発して落書きと称して描いた1枚だということだった。とても現代的な作品で、思いのままに描くことはどの時代でも普遍的なのだと感じた。浮世絵にあまり関心がない視聴者にもその魅力が伝わるような内容ですばらしかった。
- 5月14日(金)の「スマホ交換(1)」(Eテレ 後 10:30~11:00)を見た。イギリスで生まれた人気番組の日本版で、初めて会う男女が互いのスマートフォンを交換し、そこに残された手がかりをもとに会話を進めるというやや恐ろしさも感じる内容であるものの学びも多い番組だった。他人がスマートフォンをどのように利用しているかを知ることはあまりなく、アプリの活用のしかたも勉強になる。人生設計をメモに書いている人が紹介されていたが、スマートフォンは使用者の個性が最も表れるものなのではないかと感じて興味深かった。いまの世の中をしっかりと捉えたよい番組だった。
- 5月1日(土)のBS1スペシャル「究極のヨットレース 白石と猛者たち 激闘3か月」(BS1 後 8:00~8:50)を見た。無寄港かつ無補給で3か月もかけて世界一周するという過酷なヨットレース「ヴァンデ・グローブ」に挑んだ選手たちの壮絶な物語を伝えていた。日本人の冒険家である白石康次郎さんがこのレースに挑んでいた。白石さんのことは以前から注目しており、前回出場した際にはリタイヤし

ていたので過酷なレースであることは知っていたが、この番組を見て想像を絶するレースであることがよく分かった。出場した選手自身が撮影した映像を織り交ぜることで、選手たちの個性やレース中の感情をうまく伝えていた。ヨットというあまり有名とは言えないスポーツを番組でしっかり取り上げたことを評価したい。ヨットレースについて分かりやすく伝えることは難しいが、世界地図を用いて選手の位置や海域の状況を詳しく説明することで、誰にでも分かりやすい番組になっていた。今後もさまざまなスポーツを取り上げて行ってほしい。

- 5月8日(土)のBS1スペシャル「市民たちの“不服従”～ミャンマークーデターから3か月～」を見た。重度の糖尿病と乳がんを患いながらも不服従運動を続けている女性教師や、軍に指名手配されながらも活動を続ける女性医師の物語を中心に、ミャンマーで起こっていることをしっかりと伝えるすばらしい番組だった。なお、時間の経過とともにミャンマーに関する報道が減っていくのではないかと危惧している。ミャンマーの状況はとても厳しく、NHKの報道が果たす役割は大きいと思われるので、引き続きよろしくお願ひしたい。

(NHK側)

ミャンマーの情勢については引き続きしっかりと伝えていきたい。頂いた意見は現場と共有するとともに、今後の番組制作に生かしていきたい。

- 5月12日(水)の千鳥のスポーツ立志伝「理論と実験で挑む“エエカッコしい”～パラ陸上・山本篤選手～」を見た。義足幅跳びの山本選手を取り上げており、とてもよい内容だった。なお、同じ種目の中西麻耶選手をこの番組で取り上げたこともあるので、別の種目の選手を紹介してもよかったのではないかと。引き続きさまざまなパラアスリートに焦点を当てて行ってほしい。コロナ禍においては選手への取材が難しい面もあると思うが、工夫をしながら番組を継続してほしい。

(NHK側)

さまざまな選手に焦点を当てることを意識して番組を制作している。コロナ禍で密着取材が難しい状況ではあるが、引き続きアスリートの魅力を紹介していきたい。

- 5月12日(水)のスポヂカラ! 「“砂漠”の町に奇跡を～茨城 鹿島アントラーズ～」(BS1 後8:00～8:49)を見た。スポーツの力で地域を元気にしようとする取り組み各地の事例を紹介して応援する新番組だ。初回は鹿島アントラーズについて取

り上げていた。利便性がよいとは言えない茨城県の鹿島市を拠点にしながらもJリーグに加入し、強豪チームに成長した過程がよく理解できた。地域とクラブが一体となって成長したことをチームの視点で伝えていたことがとても新鮮だった。スポーツ番組はどうしても選手に焦点を当てることが多いが、別の視点で捉えることで選手の成長やチームの強化につながることを教えてくれる、意義のある番組だった。スポーツの持つ力や意義について改めて考えさせられる内容ですばらしかった。示唆に富んだ内容で、多くの人の参考になったのではないか。廣瀬智美アナウンサーの進行にも安定感がありとてもよかった。

(NHK側)

スポーツの分野における地域活性化の動きを取材して伝えることはとても重要だと考えており、「スポヂカラ」をスタートさせた。地域の放送局とも連携して、さまざまな取り組みを伝えていきたい。

- 5月1日(土)の「東大キャンパス・ミュージアム 知の迷宮で宝探し」(BSプレミアム 後 7:30~8:59)を見た。さまざまな所蔵品がしっかりと整理して保管されていることに驚かされた。博物館の裏側を知ることができてとても興味深かった。時代を超えて大切にされている数々の貴重な資料を紹介する研究者からは、こだわりや愛情がひしひと伝わってきた。研究者たちの解説は多角的で新鮮だった。質問にも平易なことばで分かりやすく説明していたこともすばらしかった。100年以上前の植物の標本から、当時の姿を手書きで再現する技術が実演されていた。貴重な無形の財産であり、感動した。博物館の紹介番組は、見る人の興味の度合いによっては退屈に感じてしまうことが多いが、今回は全体を通して誰にでも楽しめる工夫が随所に感じられ、飽きることがなかった。個性的な研究者たちを番組の主役にしていたこともよかった。
- 5月7日(金)の最初の企画書を見せてください「時代を変えたあの腕時計」(BSプレミアム 後 10:00~10:59)を見た。かつて一大ブームを巻き起こした腕時計について取り上げていた。構造案も実験スケジュール案もない、ただ1行「落としても壊れない丈夫な時計」とだけ書かれた企画書に驚かされた。当時の時計が薄さを競っていたなかで、全く新しい発想で製品開発に取り組んだ技術者の苦労や努力も伝わってきた。発想の原点に焦点を当てるといふ番組のコンセプトがすばらしかった。

(NHK側)

誰もが知っている大ヒット商品の企画書はどのようなもの

なのかという素朴な興味から生まれた番組だ。頂いた意見は現場に伝えるとともに、今後の番組制作に活かしていきたい。

- ワクチンの集団接種が各地で始まった。国と自治体の連携のつたなさなど、さまざまな問題や混乱が生じている。このような新型コロナウイルスの感染拡大に関する報道においては、個々の事例を伝えるだけで終わってしまうケースが多々見受けられる。問題の背景をしっかりと掘り下げ、専門家や当事者の意見も交えて伝えることで、より建設的な報道になると考える。また、ワクチン接種においては各地の成功事例を取り上げることも重要だろう。NHKには不安をあおるのではなく視聴者のためになる報道を期待している。引き続き努力を続けてほしい。

(NHK側)

新型コロナウイルスに関する報道について、頂いた指摘を踏まえて引き続きしっかりと取り組んでいきたい。ワクチンの接種については成功事例を取り上げるなど視聴者に役立つ報道を心がけたい。不安ばかりが増幅するような伝え方にならぬよう注意するとともに、多角的に報じていく。

- 新型コロナウイルスに関連する報道について、1日あたりの新規感染者数や、それがこれまでと比較して多い少ないということは報じられているが、その本質的な意味が伝えられていないと感じている。例えば1,000人の感染者がいたとして、それが多いのか少ないのかが実際のところ分からない。感染者が1万人いたとしても、空いている病床が10万床あれば感染者数が多いとは言えないのかもしれない。病床が逼迫している問題への対策についてもあまり報じられておらず、ワクチンの接種についても詳しい情報が伝わってこない。アメリカやイギリスではワクチンの接種が進み、日常を取り戻しつつあると聞いている。新型コロナウイルスの感染拡大対策について、政府や自治体に対する批判が強くなっているが、メディアの報道姿勢が国民の不安を増長させた面もあると思う。これまでの報道をしっかりと検証したうえで、視聴者に資する報道を期待したい。

(NHK側)

病床逼迫への対策やワクチンの接種状況などは放送のほかホームページでも詳しく伝えているが、引き続き努力していきたい。感染者数については本質的な意味も含めてしっかりと伝えるなど、頂いた指摘は今後の報道に活かしていきたい。

NHK編成局  
番組審議会事務局

## 2021年4月NHK中央放送番組審議会

4月のNHK中央放送番組審議会は、19日(月)、NHK放送センター(ウェブ開催)において、16人の委員が出席して開かれた。

会議では、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、5月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### (出席委員)

委員長	國土 典宏 (国立国際医療研究センター理事長)
副委員長	石戸奈々子 (NPO法人CANVAS理事長)
委員	秋田 正紀 ((株)松屋代表取締役社長執行役員)
	石堂 真弘 (全国農業協同組合中央会常務理事)
	磯崎 功典 (キリンホールディングス(株)代表取締役社長)
	大川 順子 (日本航空(株)元副会長)
	小沢 秀行 (朝日新聞社論説副主幹)
	尾上 紫 (日本舞踊家、女優)
	木村たま代 (主婦連合会事務局長)
	栗原 友 (料理家)
	佐倉 統 (東京大学大学院情報学環教授/理化学研究所革新知能統合研究センターチームリーダー)
	柴田 岳 (読売新聞大阪本社代表取締役社長)
	仲條 亮子 (グーグル合同会社執行役員/Youtube日本代表)
	花岡 伸和 (一般社団法人日本パラ陸上競技連盟副理事長)
	福井 烈 (公益財団法人日本テニス協会専務理事)
	安河内賢弘 (JAM会長)

### (主な発言)

#### <放送番組一般について>

- 3月18日(木)のNHK地域局発「金とく『そして、音が生まれる』」を見た。地域の放送局が制作した番組を全国向けに発信する取り組みがよい。高校の吹奏楽部の生徒たちが、コロナ禍での一斉休校という状況に直面しながらも1月の公演を目指して取り組んだ1年間の姿を丁寧に描いており、感動的だった。以前「あさいち」でも取り上げられていたので、続報が気になっていた人も多かったと思う。一方で、この

番組を見逃してしまった視聴者も多かったのではないか。NHKプラスのトップ画面に「ご当地プラス」の案内が新しくできたので見つけやすくはあるものの、見逃し配信の期間は最長でも2週間であり、それ以降は見ることができなくなる。また、NHKプラスのキーワード検索は正確な番組名を入力しないと検索結果が全く表示されない。改善の余地があると感じている。

(NHK側)

NHKプラスでは、地域放送局が制作した一部の番組の配信を3月に開始した。サービスについては、現在改善を進めているところだ。頂いた意見は今後のサービス改善に生かしていきたい。

- 3月21日(日)のNHKスペシャル「令和未来会議どう考える？東京オリンピック・パラリンピック」(総合 後9:00~9:59)を見た。期待を裏切らない興味深い番組だった。パネリストも多彩でバランスもよく、議論も白熱して盛り上がっていた。一方で、パラリンピックについての言及が不足しており、少しもの足りない印象を受けた。また、パネリストの意見が遮られてしまう場面がたびたびあり気になった。東京オリンピック・パラリンピックを開催すべきかどうかという議論は難しいが、国民の多くは開催に反対しているというデータもある。新型コロナウイルス感染拡大のリスクが増すというのが大きな理由だが、「そのリスクを勘案しても開催すべきだ」という意見を支える根拠がやや不十分だったと感じた。スポーツは人と人をつなぐものであり、オリンピックの本来の意味もここにつながると思われる。オリンピックの理念について、しっかりと踏まえたうえで本質的な議論をしてほしかった。今後もスポーツの本来的な意義を考えるような番組を期待している。

(NHK側)

今回は東京オリンピック・パラリンピックの開催についてさまざまな意見があることをしっかりと伝えたいと考えた。オンラインで全国の学生にも参加してもらった。放送時間の関係ですべての意見を紹介することはできなかったが、ホームページにおもだった声を掲載することにした。頂いた意見は現場に伝えるとともに、今後の番組制作に生かしていきたい。

- 4月3日(土)のNHKスペシャル「追跡“コロナ犯罪”」を見た。持続化給付金の不正受給問題についてしっかりと取材されており、よい番組だった。反社会的勢力が一般の人たちを利用し、犯罪行為に加担させていることがよく理解できた。新型コロナ



ナウウイルスの感染拡大で人々に不安が広がり、さまざまな社会問題が生じている。これらの問題については多角的かつ複眼的に報道することが重要だ。そこで大切になるのは取材力であり、給付金の問題については犯罪に手を染めてしまう人の心情などを事実に基づいて報道することが重要だ。その意味でも参考になるよい番組だったと思う。

(NHK側)

給付金の不正受給問題はニュースでは報じられているものの、実態を掘り下げる番組はこれまであまり放送されてこなかった。今回、取材を重ねる中で、一般の人々が軽い気持ちで犯罪に手を染めてしまう実態を把握することができた。今後もこのような調査報道を続けていきたい。

- 4月4日(日)のNHKスペシャル「緊迫ミャンマー 市民たちのデジタル・レジスタンス」(総合 後 9:00~9:54)を見た。現地での取材のほか、SNSなどに投稿された動画を用いて、軍による市民への弾圧の実態やクーデターの背景に迫っており、緊迫した状況がよく伝わってきた。新型コロナウイルスの感染拡大で国境を越える往来が難しい中、番組制作にインターネットを効果的に活用しており感心した。制作手法も含めて示唆に富んだ番組だったと思う。インターネット上の情報だけではなく、日本に住む関係者にも取材することで説得力のある情報が集まり、この問題を掘り下げることができたのだろう。さまざまな情報源を有効に活用したことを評価したい。なお、中国の新疆ウイグル自治区の問題については、当局による情報統制によって現地の情報が入手しづらいので、関係者に直接取材することが重要になると考えられる。また、今回の「NHKスペシャル」は4月3日(土)のETV特集「パンデミック 揺れる民主主義 ミャンマー 立ち上がる市民たち」とあわせて見るとこの問題への理解がさらに深まったのではないかと思う。NHKプラスを活用するなど、同じテーマの別番組を見ることができるようサービスを期待している。

(NHK側)

視聴者にさまざまなニュースや問題について深く理解していただくために、NHKが同じテーマを扱った別の番組の存在をお知らせすることがとても重要になると考えている。NHKプラスも含めて、よりよいサービスを提供できるよう努力を続けたい。

- 4月4日(日)のNHKスペシャル「緊迫ミャンマー 市民たちのデジタル・レジスタンス」

ダンス」を見た。今回の軍によるクーデターと 1988 年のクーデターとの大きな違いは、インターネットが普及し、多くの市民がさまざまな情報を得ていることだと考えている。SNSを活用して現地の情報を収集し、軍による市民への弾圧を明らかにしようとする動きがあることなど、とても興味深い内容だった。ミャンマーの不服従運動の象徴的な存在であった女性が軍によって殺害されたことを知り深く考えさせられた。ジャーナリズムを大事にした報道を今後も続けてほしい。

(NHK側)

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、海外の出来事取材する際にインターネット上の情報を活用することが増えていくと考えている。指摘を踏まえ検証を重ねながら、今後もさまざまな取り組みを続けていきたい。

- 4月10日(土)のNHKスペシャル「池江璃花子 新たな挑戦」を見た。池江選手が出演しており、自身のことばでこれまでの苦労や思いを語っており、心に響いた。進行役の和久田麻由子アナウンサーは池江選手の思いをうまく引き出していたと思う。池江選手は体重がかなり落ちたそうだが、アスリートにとっては想像を絶することであり、克服するために彼女が地道な努力を積み重ねてきたことがよく伝わってきた。タイムリーな番組ですばらしかった。
- 4月15日(木)のクローズアップ現代+「松山英樹・独自映像がとらえた知られざる舞台裏」を見た。「日本人だからメジャーは勝てないということは絶対にない」という強い信念のもと、もがき苦しみながらも挑み続けた経過を映像で振り返っていた。松山選手の妥協を許さない姿勢について関係者の証言をもとに伝えており、松山選手が血のにじむような努力を続けてきたことがよく理解できた。目標を掲げて、それを達成しようとしている人はスポーツ界に限らず数多くいる。タイムリーな番組で、内容も示唆に富んでおりすばらしかった。

(NHK側)

いずれの番組も両選手が大会で優勝した直後に放送することができたのは、これまでの取材の蓄積があったからだ。タイムリーな番組をお届けできるよう、今後も努力を続けたい。

- 4月11日(日)のNHKスペシャル「家族が最期を決めるとき～脳死移植 命をめぐる日々～」を見た。2010年7月に「改正臓器移植法」が施行され、本人の意思が不明な場合にも家族の承諾があれば脳死後の臓器提供ができることになった。このこと

で、以前よりも多くの臓器提供が行われるようになった。現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で臓器提供数が減っている中、「NHKスペシャル」でこのテーマをしっかりと取り上げたことを評価したい。番組では、臓器を提供した2つの家族と、提供しなかった1つの家族の事例を紹介していた。それぞれの家族はこれまでの経験や思いを率直に語っており感動した。最初に紹介された事例は感動的だったが、次に紹介された2つの事例は家族内に複雑な事情があつて、臓器提供自体とは違う方向の想像が膨らんでしまった。特に2つ目の事例は故人の名誉が傷つけられているのではないかと心配になった。また、日本臓器移植ネットワークが実施した「全ドナー家族のアンケート調査」について紹介されていたが、もう少し詳しく伝えてほしかった。現状では医療に関連する番組のテーマは新型コロナウイルスに偏りがちだが、人の命の問題を取り上げた今回のような番組を評価したい。

(NHK側)

昨年2月に放送した「首都圏情報！ネタドリ」でこの問題を取り上げたところ、視聴者から大きな反響があつた。今回の番組は視聴者によってそれぞれ見方が異なり、共感する事例もさまざまだったのでないかと考えている。頂いた意見は現場に伝えるとともに、今後の番組制作に生かしていきたい。

- 4月17日(土)のNHKスペシャル「看護師たちの限界線～密着 新型コロナ集中治療室～」を見た。大学病院で働く看護師たちの現場に密着しており、すばらしい番組だった。優秀な看護師でさえも力尽き、退職を余儀なくされる厳しい状況に胸が痛んだ。常に笑顔を絶やさなかった看護師が患者の死をきっかけに神経性胃炎になり、休職せざるをえなくなるなど、過酷な状況がよく伝わってきた。現場の看護師たちにしっかりと寄り添っていたと思う。看護師に限らず、エッセンシャルワーカーが過酷な労働条件に置かれている問題は、すぐにでも解消しなければならないと考えている。人々の使命感だけに頼ってはいは問題の解決にならないということが世の中に広く認識されるよう、今回のような番組を今後も制作し続けてほしい。

(NHK側)

昨年12月の「NHKスペシャル」で取り上げた大学病院の看護師の方々を継続取材し、その後を伝えた番組だ。若い看護師の使命感に頼ることで、現場に過度な負担がかかっている実態を伝えたいと考えた。番組を見た視聴者からは、自身の行動を変えるきっかけとなったという反響も多く寄せられている。人々の行動変容につながる番組になったのであればよかったと

思う。

- 4月18日(日)のNHKスペシャル「新型コロナ 全論文解説2～AIで迫る 終息への道～」(総合 後9:00～9:54)を見た。世界中の論文を読み解くことで、ワクチンや変異ウイルスなどに関する最新の情報を誰にでも理解できるように分かりやすく解説しておりとてもよかった。新型コロナウイルスとの向き合い方について、丁寧に示していたと思う。ワクチンの有効性について、具体的なデータを示しており参考になった。変異ウイルスの感染率や致死率が、従来のウイルスと比較してどの程度高いのかもよく分かった。新型コロナウイルスの感染拡大が終息する道筋について、予想を示していたこともよかった。一方で、ワクチンはさまざまな世代に同時並行で接種することが本来は望ましいとのことだが、それが現実的に難しい理由についてさらに掘り下げてほしかった。続編の放送にも期待したい。

(NHK側)

新型コロナウイルス関連の情報については、今後も具体的なデータを用いて分かりやすく伝えていきたい。頂いた意見は現場に伝えるとともに、今後の番組制作に生かしていきたい。

- 3月22日(月)のプロフェッショナル 仕事の流儀「庵野秀明スペシャル」(総合 後7:30～8:45)を見た。映画監督の庵野さんの仕事ぶりに注目した番組だったが、最新作の制作過程やこれまでの作風などについてももう少し掘り下げてほしかった。庵野監督の指示に翻弄されるスタッフたちが困惑する様子は興味深く、考えさせられたものの、庵野監督の人となりをもっと多面的に紹介するとなおよかったと思う。番組冒頭の「私たちは悟った、この男に安易に手を出すべきではなかった」というナレーションはインパクトがあった。映画の制作現場はとても厳しいもので、貴重な舞台裏を見ることができると素晴らしい番組だった。

(NHK側)

今回、庵野監督に長期間密着取材をした。4月29日(木)にはBS1で100分の特集番組を放送する予定なので期待してほしい。頂いた意見は現場に伝えるとともに、今後の番組制作に生かしたい。

- 3月31日(水)のクローズアップ現代+「追跡!“オンラインサロン” コロナ禍で利用者急増の裏側！」を見た。オンラインサロンのよい点と悪い点をバランスよく取り上げることが意識した番組だったと思う。オンラインサロンは地域や世代を超えた

交流の場を提供できる一方で、閉鎖的な世界になりがちでメンバーが1つの価値観に染まってしまうリスクもある。今回の番組では、オンラインサロンに入ったことで高校を中退した人を取り上げ、オンラインサロンが学校の代替として機能するのかというところに焦点を当てていたが、この問題についてはより深く掘り下げる必要があると思う。番組を見て煮えきらない思いを持った視聴者も多かったのではないか。オンラインサロンはこれまで居場所がなかった子どもたちに新たな選択肢や多様な学びを提供する意味で有用であり、学校だけが学びの場ではないことは事実だ。しかし、日本社会は一度既定の路線を外れてしまうと、戻りたくても戻ることが難しくなるという問題がある。高校を中退するという選択肢を選んだ人を取り上げるのであれば、彼らの人生がよりよいものになるために、日本社会がどのように変わっていくべきなのかということまで踏み込んで伝えるべきだったと考える。このテーマについては引き続き取り上げてほしい。

#### (NHK側)

バランスのとれた内容にすることが難しい番組だった。オンラインサロンのような新しい動きが今後どのような経過をたどるかについては、今後も強い関心を持って取材を続けていきたいと考えている。

- 新番組の「歴史探偵」を見ている。初回の3月31日(水)の「参勤交代」はよくまとまった内容でよかった。4月7日(水)の「平安京ダークサイド」も興味深かったが、後半、少し情報を詰め込みすぎている感があった。4月14日(水)の「関ヶ原の戦い」は、以前BSで放送された番組の二番煎じのような印象を受けた。「通説が覆る」というのがコンセプトのようだが、そこにこだわりすぎないほうがよい。新しい発見や解釈がいくつか紹介されれば、十分、視聴者の興味に応える番組になると思う。
- 4月14日(水)の歴史探偵「関ヶ原の戦い」を見た。「歴史秘話ヒストリア」の後継となる番組で、今回は関ヶ原の戦いをテーマにしていた。関ヶ原の戦いが行われた地域の上空から航空レーザー測量を行い、赤色立体地図を作成していた。また、西軍が築いたとされる巨大な山城の全容をCGで再現することで新たな事実を明らかにしていた。俳優の佐藤二朗さんが探偵所長の役割を担うことで親しみやすさを演出し、複数のアナウンサーが進行役として出演することで「歴史秘話ヒストリア」と差別化を図ったのだろう。しかし、全体的にかえって雑多な印象の番組になってしまったように思う。また新番組でありながら、メインの進行役は替わっておらず、やや違和感があった。さまざまな仮説を立てたうえで、その仮説を最新の科学技術を活用して立証しようとする試みが興味深かった。

(NHK側)

「歴史探偵」は「歴史秘話ヒストリア」と同様、大阪局が中心になって制作している番組だ。「歴史の常識が変わる」というコンセプトを意識しすぎるあまり、視聴者が納得感を得られない演出にならないように気を付けるとともに、歴史上の新発見を丁寧に伝えることを心がけていきたい。頂いた指摘は現場に伝えるとともに、今後の番組制作に生かしていきたい。

- 4月2日(金)から「ニュース きん5時」がスタートした。まだ放送回数が少ないので番組の構成が定まるまではしばらくかかるのだろうが、よい滑り出しだったと感じている。司会の武田真一アナウンサーは安定感があり、速報のニュースも落ち着いて伝えていた。大阪ならではの雰囲気を保ちながら、さまざまなニュースについてNHKの視点で伝える番組になることを期待したい。
- 新番組の「京コトはじめ」を見ている。新型コロナウイルスの感染拡大で、旅行の自粛が求められる中、自宅に居ながら京都の魅力を体感できるのがうれしい。生中継であることを生かして、季節感を大切にしたい番組づくりを期待したい。なお、番組で紹介された店について、具体的な店名が示されなかったのは、NHKの番組制作上の制約によるものなのだろうか。また、京都については、観光公害という言葉があるように、観光客の集中に伴うさまざまな問題や景観保護などの課題もある。京都の“光”だけでなく、このような問題についても、別の形でしっかりと伝えてほしい。

(NHK側)

NHKでは、他人の営業に関する広告の放送をしてはならないとされており、放送で店名を示す際には、それが番組の本質的な要素であるかについて慎重に議論をして判断している。

- 4月2日(金)の京コトはじめ「桜を堪能！京都人のお花見」を見た。コロナ禍で花見をすることもままならない状況だが、京都の桜の名所が美しい映像で紹介されており、家にいながら花見を楽しむことができるすばらしい番組だった。このほかにも、美しい桜の映像を紹介した番組がいくつか放送されておりとてもよかった。さまざまな理由で旅行や外出が難しい人のためにも、季節を感じられる今回のような番組を作り続けてほしい。一方で、NHKは良質な番組を数多く放送しているものの、放送日時での周知が十分ではないと感じている。今後の取り組みに期待したい。

- 4月4日(日)にスタートした「ニュース 地球まるわかり」を見ている。3月まで放送されていた「これでわかった！世界のいま」と比較するとバラエティー色が薄まったという印象を受けた。この番組はアメリカなどに滞在経験のある須田正紀キャスターが世界のさまざまな問題を詳しく伝え、ゲストの出演者が質問するという構成で、ミャンマー、シリア、新疆ウイグル自治区の問題などについて正面から取り上げており好感を持った。今後期待したい。
- 4月13日(火)のクローズアップ現代+「“同居孤独死” 親の死に子どもが気づかず…各地で」を見た。家族と同居していながらも気づかれずに孤独死する事例が報告されていた。家族の形態は変わってきており、一昔前の感覚では考えられないようなことが今後も起こるのではないかと考えている。誰の身にも起こりうる社会問題についてしっかりと取り上げて伝えることは重要だ。「クローズアップ現代+」は常にさまざまな最新情報や社会問題を伝えてくれるとてもよい番組だと思う。

(NHK側)

ご指摘のとおり、家族の形態が変わってくる中で、これまで考えられなかったことが実際に起こっている。視聴者の反響も大きく、ひと事ではないという意見が多く寄せられた。今後もさまざまな社会的テーマを取り上げ、多角的に伝えていきたい。

- 4月14日(水)のクローズアップ現代+「野球に革命！極意を公開しシェア・育成のヒント」を見た。アメリカ大リーグのダルビッシュ有選手が、自分の持つ技術を動画配信サイトなどで公開していることを伝えていた。データを公開することによって、双方にメリットがあることを紹介しており共感した。ゲストで青山学院大学陸上競技部の原晋監督もさまざまな情報を公開している。デメリットもあるものの、情報を共有することで業界の地位が向上したり、マーケットが拡大したりすることは多い。示唆に富んだ内容ですばらしかった。今後もさまざまな課題を掘り下げて伝えてほしい。

(NHK側)

これまで培ってきた技術を公開することで周囲がスキルアップし、それが自分のレベルアップにもつながるという考え方がさまざまな分野で広がっている。一見すると意外にも思える世の中の流れをしっかりと伝えることができたと考えている。

- 4月15日(木)の所さん！大変ですよ「STOP詐欺被害 排水管から新型コロナナ！？」を見た。新型コロナウイルスの感染を恐れる人々の不安につけ込んだ悪質商法が増えていることを伝えていた。国民生活センターに関する情報も紹介されており、世の中に広く周知するという意味でもよかったと思う。今回のような防犯がテーマの番組は、具体的な事例を数多く取り上げたほうが被害を防ぐ効果があると思われるので、引き続き工夫して伝えてほしい。なお、消費者ホットラインに相談できることをもう少し強調して伝えるとなおよかった。また、排水管の臭いの原因などの話題が紹介されたことによって、詐欺被害を防ぐというメインテーマの印象が薄れてしまったのは残念だった。
- 4月3日(土)のE TV特集「パンデミック 揺れる民主主義 ミャンマー 立ち上がる市民たち」を見た。ミャンマー軍によるクーデターによって混乱が続く現地の情勢を伝えていた。軍による弾圧の実態や、軍に抗議する市民の行動などについて、ミャンマーの歴史的な背景も含めて丁寧に解説されていた。道傳愛子キャスターの進行がすばらしく、ミャンマーの内政にも詳しい歴史家のタン・ミン・ウーさんの解説も明快でよかった。民主化の道を歩んできたミャンマーでは、市民と軍の間で考え方の違いが生じている。今後、事態がより深刻化してしまうとミャンマーが国家として破綻してしまうのではないかと憂慮している。日本に留学しているミャンマー人の若者の話は現実感があつた。重要なミャンマー情勢についてしっかりと掘り下げた意義のある番組だった。
- 4月2日(金)の国際報道2021「中国ウイグル族 消えた元日本留学生たち」を見た。中国の新疆ウイグル自治区の人権をめぐる問題について詳しく伝えていた。日本にも留学経験のある知識人たちが、現地で行方不明になっていることが伝えられており深く考えさせられた。今後も取材を継続し、この問題についてしっかりと報道してほしい。

(NHK側)

ミャンマーや新疆ウイグル自治区の問題について、今後も多角的にしっかりと伝えていきたい。日本とミャンマーは経済的な関係が深く、日本企業も数多く進出している。今後もさまざまな面から取材し、番組を制作していきたい。

- 3月26日(金)のにっぽんの芸能「修羅の果てに～舞踊 新曲“景清”」を見た。3月上旬に国立能楽堂で行われた特別日本舞踊公演の様態を伝えていた。新型コロナ



ナウイルス感染拡大の影響で公演の日程が変更になるなど、日本舞踊協会も試行錯誤しながら取り組んでいるとのことで、この番組に勇気づけられた関係者や視聴者は多かったのではないかと。舞台芸術やスポーツの試合は開催すること自体が難しい状況だが、感染対策をして開催したものを放送で多くの人に届けることには価値があると思われるので、今後もよろしくお願ひしたい。

- 3月29日(月)の昔話法廷「“桃太郎”裁判」(Eテレ 前 9:00~9:33)を見た。有名な昔話の登場人物を現代の法律で裁く法廷ドラマで、若い世代に向けた教育番組だった。天海祐希さんや佐藤浩市さんなど、有名な俳優が真剣な演技を披露しており驚かされた。被告人の桃太郎が、日本刀で鬼1人を切り殺し、鬼たちの財産を奪ったという罪に問われていた。鬼が悪者であるという先入観を持たずに見ると、ものの見方が変わることがよく理解でき、考えさせられた。桃太郎自身も、桃から生まれたことで周囲から偏見を受け、SNSなどでひぼう中傷を受けていた。昔話を題材にして現代社会が抱えるさまざまな問題を提起する脚本がすばらしく、感動した。学校教育番組としてもすばらしいと感じた。

(NHK側)

「昔話法廷」は主に小学校高学年から高校生の視聴者を想定し、学校の授業で活用してもらうことも想定した番組だ。放送だけではなく、NHK for Schoolでも公開している。他人を思いやる心を育み、法律について考えるきっかけとしても活用されている。

- 3月30日(火)の「ピタゴラミングスイッチ」(Eテレ 前 9:15~9:35)を見た。「ピタゴラスイッチ」も本質的にはプログラミングを扱っているが、この番組はよりプログラミングに近い内容になっていた。プログラミングはプロセスが大切だが、そのことを身近な例を用いて分かりやすく伝えており感心した。プログラミング的思考を伝えたいがためにやや強引な教材も散見されるが、この番組で取り上げられたテーマはプログラミングの枠を超えて興味深く、知的好奇心をそそられるものだった。学校の授業でもこの番組で紹介されていたような題材を用いてプログラミング的思考を伝えてほしいと思う。NHKならではの質の高い番組で、続編を期待したい。
- 4月2日(金)のドキュランドへようこそ「娘は戦場で生まれた」を見た。カンヌ国際映画祭最優秀ドキュメンタリー賞を受賞した番組で、感銘を受けた。

- 新番組の「ズームバック×オチアイ 大回復 グレートリカバリー」を見ている。メディアの最先端で活躍する筑波大学准教授の落合陽一さんを編集長に、NHKが過去に放送した番組の膨大なアーカイブを生かして、さまざまなテーマを考えると「温故知新」を体現する番組づくりだと感じた。「言葉論」「会社論」「環境論」と続いたが、作家の川端康成や石牟礼道子の生の言葉がとても印象に残った。落合さんに引き付けられて番組を見た若い世代の人たちが、過去を深く知ること、現代社会が抱えるさまざまな課題をふかんに考えるきっかけになるとよいと思う。

(NHK側)

落合さんとともに、過去を学びながら未来を見通すことをテーマにした番組で、若い世代に見ていただくことも意識している。頂いた意見は現場に伝えるとともに、今後の番組制作に生かしていきたい。

- 4月6日(火)のハートネットTV「わたしはパパゲーノ～死にたい、でも、生きてる～」と7日(水)の「あなたもパパゲーノ～死にたい、でも、生きてる～」を見た。モーツァルト作曲のオペラの登場人物にパパゲーノという人物がいる。信じた人とのつながりを絶たれて死を決意した彼が死を思いとどまったことから、メディアの報道によって大衆の自殺が抑制される現象は「パパゲーノ効果」と言われる。番組の出演者たちが自殺を意識していたこと、自殺を思いとどまることができた理由を赤裸々に語り、考えさせられた。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で自殺者が増えているという報道もあるが、最後のところで踏みとどまって生きることを選んだ人も多いただろう。ちょっとしたきっかけで自殺を思いとどまった人もいると思われる。自殺の問題は伝え方がとても難しいが、この番組はすばらしかったと思う。

(NHK側)

メディアの報道により自殺が増えてしまう現象は「ウェルテル効果」、報道によって自殺が抑制されることは「パパゲーノ効果」と言われる。著名人の自殺などを報道すると後を追ってしまう人が増える傾向もある中、自殺願望を持っていた人たちがどのようにしてその状況を乗り越えたのかについて伝えることで「パパゲーノ効果」がもたらされることを目指した。自殺を考える人たちに少しでも寄り添いたいと考えた。

- 4月11日(日)の日曜美術館「生中継!“鳥獣戯画展”スペシャル内覧会」を見

た。新型コロナウイルスの感染拡大で美術館に行くことすら難しい状況にある。また、さまざまな理由で会場に足を運べない人たちもいる。日本が世界に誇る作品の数々を美しい映像で紹介しておりすばらしかった。生中継だったこともポイントで、臨場感があった。生中継には作品のディテールが見えづらいという欠点があるが、事前に収録した音楽や出演者の解説がそれを補っており、丁寧な演出だった。日本が世界に誇るアニメ文化の原点がこれらの作品にあるのではないかと語るゲストもあり、アニメ好きの若い世代にも訴求したい番組だったのではないかと。

- 4月3日(土)のBS1スペシャル「渋沢栄一に学ぶSDGs “持続可能な経済”をめざして」を見た。道徳と経済を両立する合本主義の考え方や、その思想を育んだ生い立ち、そしてゆかりのある企業の取り組みなど、渋沢栄一にまつわるさまざまな話題がうまくまとめて紹介されていた。渋沢は資本主義の弱点に気づいており、経済的な要素だけではなく倫理観も重視していたが、これはまさにSDGsの理念であり現代につながるものだろう。行きすぎた資本主義に警鐘を鳴らす意味でも意義深い番組だった。企業が高い倫理観を持って社会的な課題に向き合ったうえで利益を上げるという、実際には容易ではない企業経営の取り組みが紹介されていた。なお、社会的な課題に対してしっかりと向き合っている若者は数多くいるので、企業の経営層へのインタビューだけではなく、若い世代の価値観を伝えてほしかった。そのうえで、渋沢栄一の教えがSDGsと親和性があることを示すとなおよかったと思う。
- 3月27日(土)の「探検！巨大ミュージアムの舞台裏 ～国立科学博物館～」(BSプレミアム 後 7:00～8:59)を見た。国立科学博物館について、舞台裏も含めてたっぷり紹介した番組だった。博物館好きにはたまらない内容で、とても興味深かった。博物館の연구원たちがそれぞれの研究内容を詳しく語っていたのがよく、人となりもしっかりと伝わってきた。연구원の活動や人物像にも焦点を当てて、博物館の全体像を分かりやすく描いていたことがすばらしい。ナビゲーターに俳優の滝藤賢一さんとタレントの伊集院光さんを起用していたこともよかったと思う。番組の構成や演出はあくまでも研究者を主役にしており、好感を持った。新型コロナウイルス感染拡大の影響で博物館や動物園などは厳しい状況に直面している。このような施設に焦点を当てる番組を今後も作り続けてほしい。
- 4月10日(土)の「生中継！一目千本 吉野の桜」(BSプレミアム 後 7:00～8:59)を見た。新型コロナウイルスの感染拡大で旅行や花見すら困難な状況の中、美しい吉野の桜を中継で見ることができてとてもよかった。およそ1,300年前に植樹された桜が、山岳信仰と結びつくことで現在まで守られてきたことが紹介されるなど、

とても興味深い内容だった。如意輪寺の歴史についても丁寧に取材されていた。ドローンで空撮するなど、最新の技術を駆使して中継をしておりすばらしかった。一方で、やや冗長に感じる場面もあったので、もう少しテンポのある構成にしてもよかったのではないかな。ギタリストの押尾コータローさんの演奏がすばらしく、人間国宝（小鼓）の大倉源次郎さんの話も大変興味深かった。

- 4月10日(土)の【特集ドラマ】「流行感冒」(BSプレミアム 後9:00~10:13)を見た。およそ100年前のスペイン風邪の流行をテーマにした志賀直哉の小説をドラマ化していた。時代背景などは現在とは異なるものの、新型コロナウイルスの感染拡大で人々が不安を感じている時代に、人間の温かさを感じられる内容でとてもよかった。主人公は流行感冒に対して強い恐怖感を持っており、周囲の人たちとの温度差から人間関係がぎくしゃくしていたが、自らも病にかかり人々のやさしさに触れることでこれまでの考えを改めていた。主人公の心の変化がリアルに伝わってきた。人と人との信頼関係や愛情が流行感冒を克服するという内容で、後味のよいドラマだった。
- BSプレミアムで随時再放送している「菜園ライフ」を見ている。さまざまな野菜の栽培について、種まきから収穫までをナレーションなしで紹介するという、分かりやすくユニークな番組だ。家庭菜園に取り組む人たちには、参考になったと思う。この番組はNHKオンデマンドでは配信されていないようだが、有料でも見たいと思う人は多いのではないかな。
- ラジオ第2の「実践ビジネス英語」が3月に終了した。杉田敏さんが講師を担当する長寿番組だった。後継の番組として「ラジオビジネス英語」がスタートしたが、英文でのメールの書き方を取り上げるなど今日的な内容がとてもよい。一方で、これまで放送されていた「実践ビジネス英語」が週3日放送されていたのに対し、「ラジオビジネス英語」は週2日になった。逆に週2日放送されていた「入門ビジネス英語」が週3日放送されるようになったが、聴取者のレベルダウンにつながらなければよいなと思っている。NHKの語学に関するコンテンツはすばらしいものが多い。ホームページなどでも語学学習ができるようになっており、良質で信頼できる内容だ。今後もこの品質を保ってほしいと思う。今後、放送波が削減される予定だと聞いているが、語学番組が減少するなどの影響が出ないようにしてほしい。
- 4月15日(木)の太田光のつぶやき英語「#StopAsianHate アジア系への差別をやめよう」を見た。講師で立教大学名誉教授の鳥飼玖美子さんが「外国人恐怖症というものはアメリカのみならず、日本にもあるのではないかな」と

いう問題提起をしていた。さまざまな視点に立って多角的に伝えておりよい内容だった。最近、アジア系に対する差別が増えているが、NHKが国内だけではなく海外に向けて多様な声を伝えることはとても重要だと考える。アメリカにおけるアジア系に対する差別をどのように取り上げていくのかについて聞きたい。

(NHK側)

「2021年度国内放送番組編集の基本計画」の中でもお示ししているが、多様な価値を認め、ともに生きる社会の実現に寄与することはNHKの重要な役割だ。今後も多様な視点を持ち、固定観念にとらわれることのないよう十分な注意を払いつつ、さまざまな問題について多角的に伝えていきたい。

- NHKはインターネットの特設サイトで聖火リレーのライブストリーミングサービスを行っている。4月1日(木)に長野県内で行われた聖火リレーで、沿道からオリンピックに反対する大きな声があがったが、NHKはその音声を消去して配信したことが報じられていた。一般的に、一生懸命に走っているランナーに対して沿道からやじを飛ばすのは不愉快な行為だが、そうであってもNHKが音声を消去して伝えるべきかどうかというのはまた別の問題だろう。ランナーの心情を考えるととても難しい問題だが、オリンピックの開催には賛否両論あるので、それをメディアが伝えるときにメディアの判断で音声を消去して伝えてもよいものなのかが気になる。また、このことをきっかけにNHKが報じる情報に対する信頼度が低下してしまうことを懸念している。客観的に見て、NHKが報じる情報の信頼度はとても高いと考えている。新型コロナウイルスの感染拡大で生じている各国の混乱に代表されるように、メディアが報じる情報に信頼を置けるかということは今後ますます重要になってくるだろう。NHKに対する国民の信頼が低下することは、民意の形成にも悪影響が出かねないと思われるので、しっかりと取り組んでほしい。

(NHK側)

聖火リレーに限らず、生中継に際してはさまざまな音声が入ってしまう場合があるので、慎重に対応している。聖火リレーに参加している方々への配慮や音量の大きさなど総合的に勘案した。頂いた意見は真摯(しんし)に受け止めたい。

(NHK側)

NHKではさまざまなニュースや番組で、オリンピックを

めぐる多様な意見を取り上げ、多角的に伝えている。意見が対立する問題についてはできるだけ多くの角度から論点を明らかにし、しっかりと伝えることが公共メディアの役割だと考えており、その姿勢が揺らぐことはない。

- よく理解できた。公共メディアとしてのNHKに期待しているので、よろしくお願ひしたい。
  
- NHKプラスクロスSHIBUYAで開催されている「共鳴するメディア 8K ビジュアライゼーションの可能性」を見てきた。オーストリアのリンツ市のアルスエレクトロニカ・フューチャーラボとの共同企画展だった。リンツ市で開催されたイベントでNHKの8K展示を実際に見たことがあるが、多くの日本人が来場していた。日本でもそのような企画展が開催されることを期待していたが、今回それが実現したことはすばらしいと感じた。

NHK編成局  
番組審議会事務局